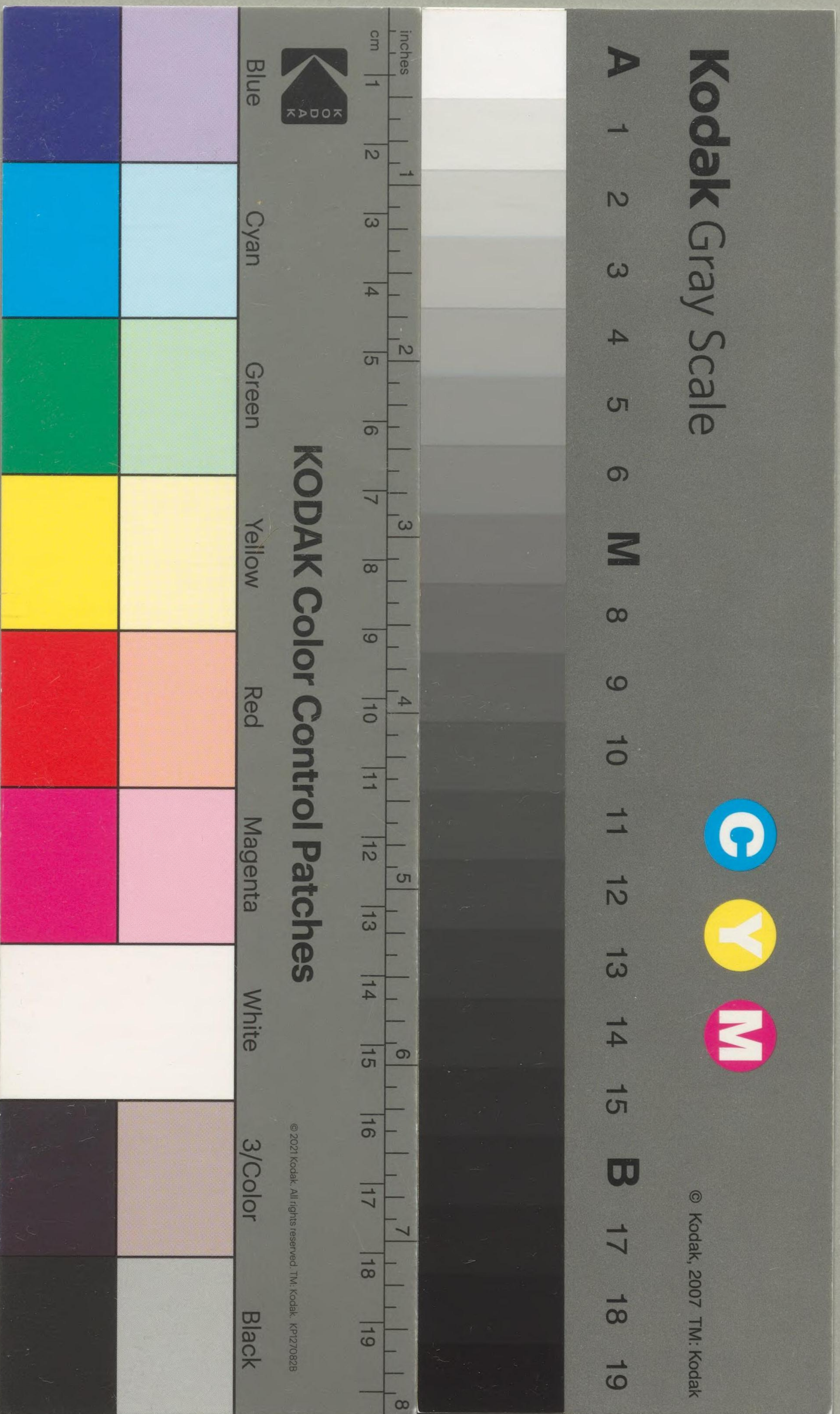


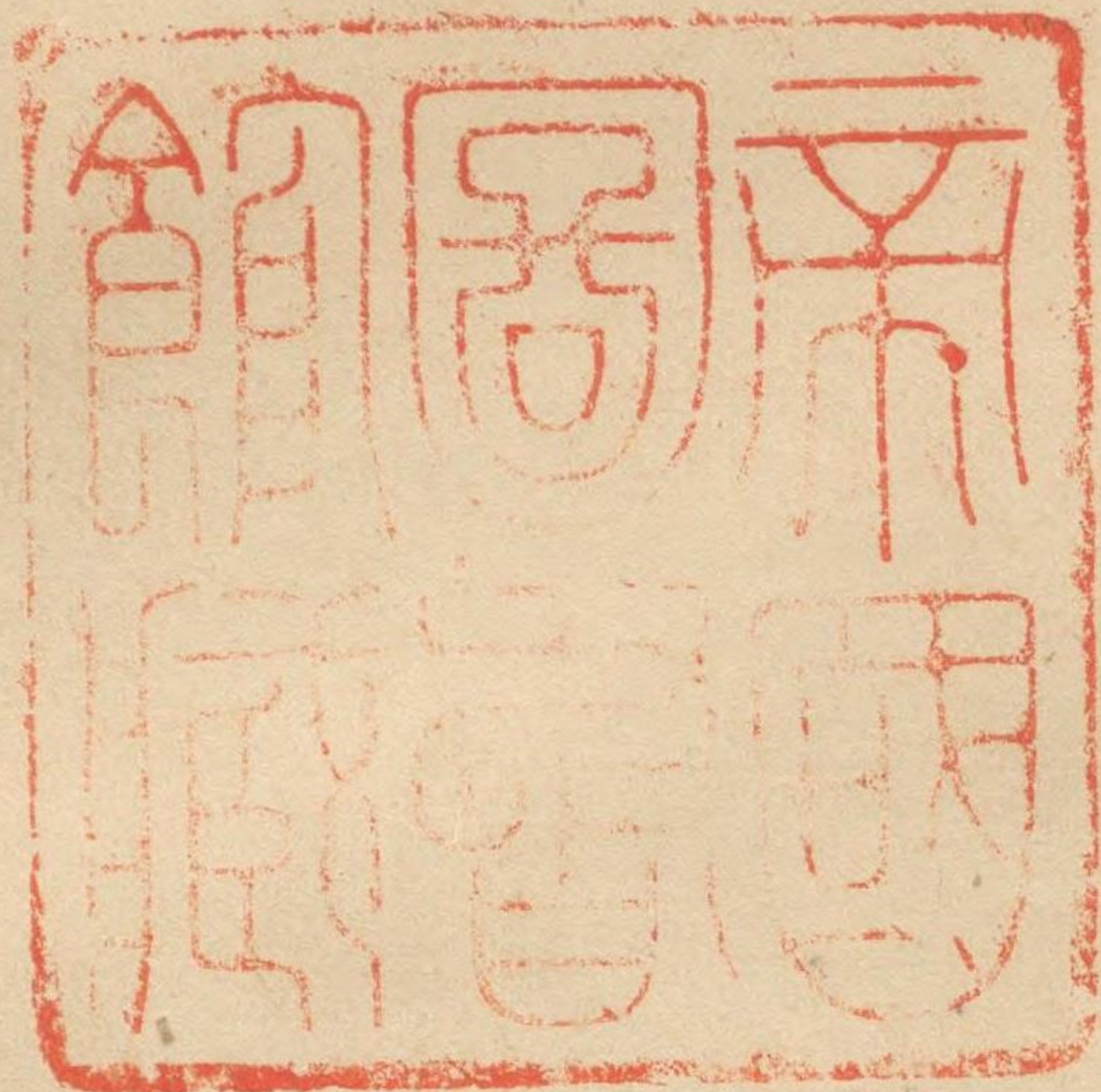
405
24

元寇畫鑑



405
24

外
2208



26. 6. 5

○蒙古襲來の圖解

第一圖 上壇に傲然戴冠せるは元主忽必烈とす其前に坐し地圖を披きたるは高麗國全羅道漢安に生れたる趙葵にして元主の寵を受け其間に應じ日本征服の謀を獻する所傍の高机に憑るは元主の顧問にて伊太利人マルコボロ左右に列するは元主の股肱群臣なり

第二圖 正面の肖像は北條時宗其下にあるは大宰少貳覺惠元主の牒狀を讀む處其下は牒狀の全文左の上圖は命を守りて元使に抗したる對馬の人民藤原彌太郎兩人を捕へ元主の宮殿に連れ行き威を示す所其下圖は筑前今津の海邊に元使着船の所右の上圖は元使陰かに月夜に潜み日本の地形を探ぐる處下圖は日本諸國に注進急報

第三圖 文永十一年十月五日元軍三萬餘艘相衝み來て對馬を圍む守護代宗助國僅に八十餘騎を從へ防戦す此時島民の戦死するもの擧て數ふ可らず殘るもの老幼婦女のみ賊之を捕へ掌を穿ち繩を透し連貫して船に繋ぎ或は斬殺す

第四圖 對馬守護代宗助國は八十二名の小勢にて一騎當千の働きあり勇士を指揮して戦へ共敵には三萬餘の兵あり衆寡敵し難く終に戦死す助國の弟宗馬之允も肥後の土江井藤藏源藏も共に同じく斃る援軍不到嗚呼

第五圖 敵軍勝に乗じて壹岐を圍む守護代平景隆は僅かに百餘騎を以て力戦するも刀折れ矢盡き敵勢益々加はり終に防くに道なく一門擧て城中に自盡す死に臨みて從容其臣宗三郎を坐右に召し大宰府へ使ひす宗三郎共に戦死を願ふ許るさず涙を吞むで別れ使を全ふす

第六圖 此圖は元軍進て九州に上陸せし所にして筑前博多灣の近傍とす敵軍は今津海邊よりす我軍は箱崎の方より邀撃奮闘すも雖も此時敵軍は砲を放て進む我軍の苦戦云へからず

第七圖 元軍又進て千代松原に陣し火を放ち箱崎八幡宮を燒き狼狽益甚し我軍終に支ふる能はず退却す少貳景資之に殿す敵將劉副亨等數騎を率ひて奮進す景資響を反し射て之を斃す

第八圖 翌建治元年四月十四日又々元使杜世忠、何文著、撤都魯丁、等五名周防國室津に來る要求益々無禮也時宗熟慮深く決する處あり九月七日之を鎌倉籠の口に斬り大に天下に示し明年三月を期し蒙古征伐の軍を出さん事を布告し艦手を博多に集む且海防大工事を起し石壘を増築す

第九圖 朝廷には勅使を諸社に立てられ國難を禱はんことを祈らせ玉ふこと數回

第十圖 伊勢大神宮へ勅使參着御祈誓を宣ふる所とす此時

石清水八幡宮へは 至尊御身親ら精祈し玉ふ聞くも長く恐入りたる次第にて億兆一心感泣に堪ざる所也

第十一圖 弘安四年五月廿一日元軍十萬來り迫る我軍之を壹岐の海上に防ぐ利あらず退て博多石壘を守りて嚴也敵軍上陸する能はざることを七十餘日少貳、大友、菊池、島津、松浦、龍造寺、秋月、赤星、大矢野、其外九州勢は勿論關東勢も馳せ加はりて屢々敵船を襲撃す此時伊豫國河野通有は壘外に陣して先登敵將を擒にし肥後國竹崎季長は敵將を斬り功名最も顯はる

第十二圖 沖合の火烟は即ち河野通有、合田五郎、草野次郎、其他の武士は小舟にて進み敵船に切込みたり近く見ゆるは蒙古襲來繪巻物を著して有名なる竹崎大矢野等の働きを示すものとす此時敵軍にては我小舟の來るを見て降伏を申し來りしと思ひの外襲撃せられて上陸する事も到底なす能はず遁け仕度を爲すものあり

第十三圖 所謂神風起りて敵船覆没せり文永の役にも弘安の役にも颯風に乗じて掃蕩の功を奏せしは誠に天助也然れども戦勝を以て風力とする勿れ日本を守りしは忠勇殉難者の力也此役や捕虜中より撰んで于闐、莫青、吳萬五の三人を還へし元主に告しむ元主大に驚き先きに遁け歸りて偽りの報告を爲し褒賞を受けたるものを罰す

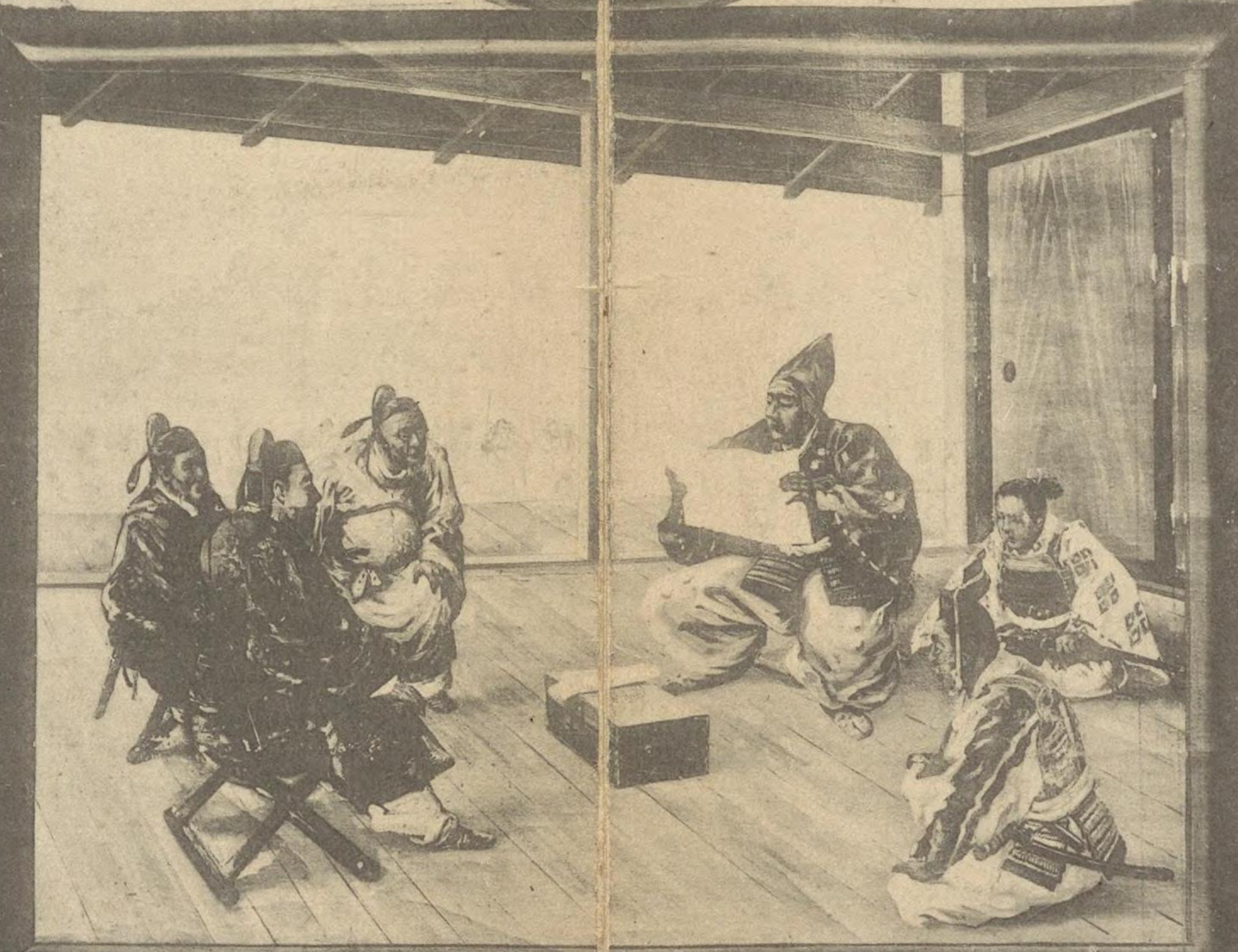
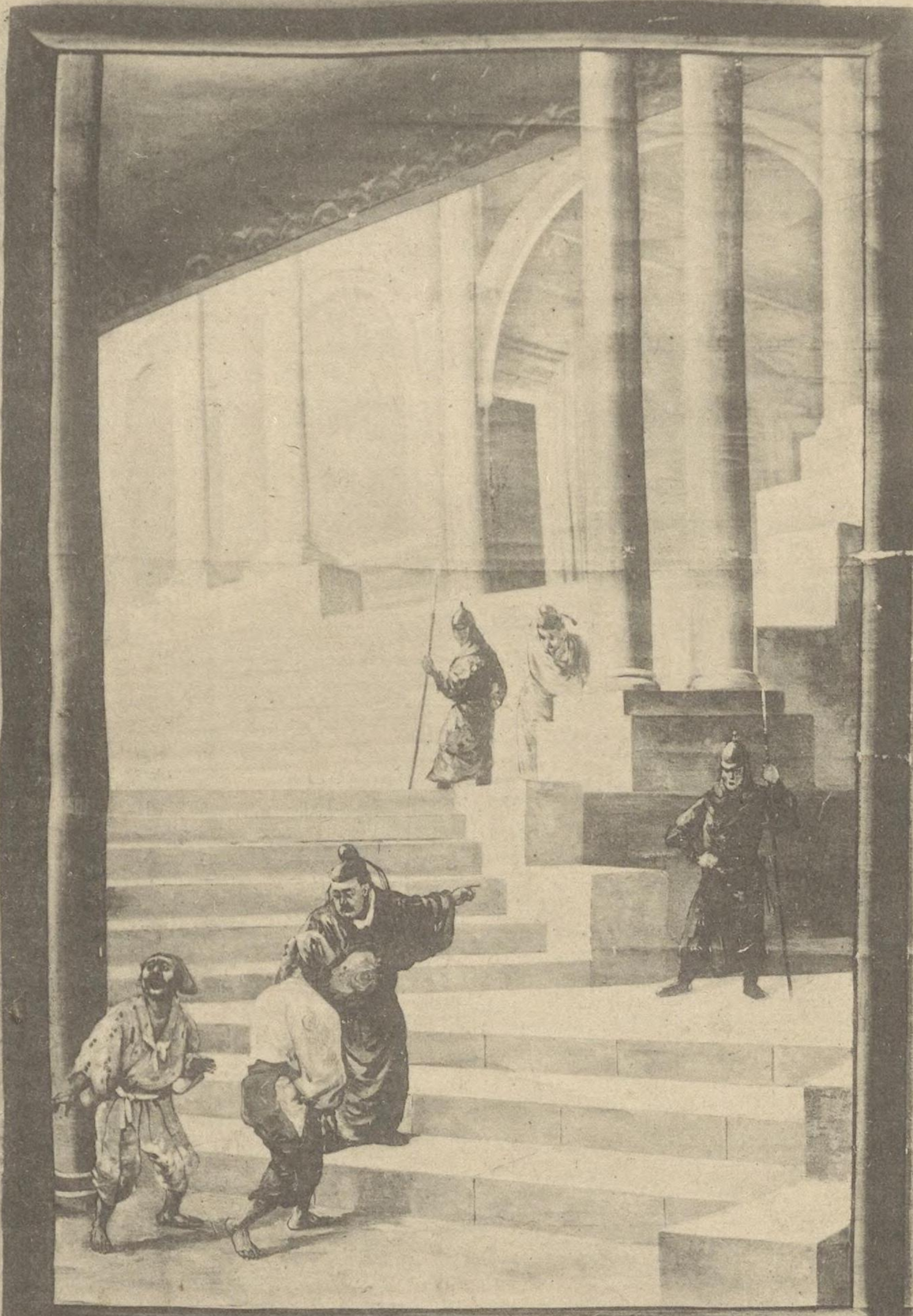
第十四圖 嗚呼是れ筑前海岸今津近傍戦後の慘状也畏くも

至尊命を懸け忠臣身を致し國家を累卵の危きに守りし殉難者忠魂の止まる處なり今や文明慈善の世片時も問はで忍べき古戰場なる千代の松原に元冠記念碑を建設の舉あるも之か爲め也

今般有志の者其其縣下に於て元冠記念碑建設の趣被聞食金千圓下賜候事

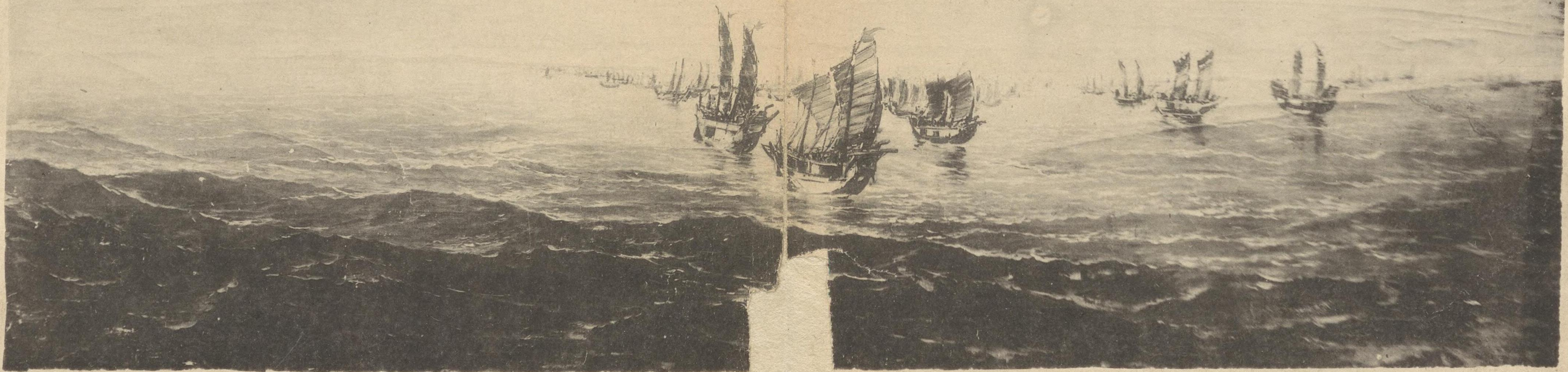
明治廿三年十二月十七日





上天眷命
大蒙古國皇帝
日本國王
君境土相接高務務信修睦
况我
祖宗受天明命奄有區夏越方
其域畏威懷德不可悉數
朕即位之初以高麗死事北
民久瘁鋒鏑即命罷兵還其
疆域及其旆倪高麗君臣感
歡來朝茲雖君臣而歡若父
子對
王之居臣亦已知之而飛聞
之東藩也日本窮通高麗
聞以來亦時通中國至朕躬
而無一衆之使日通和好尚
恐
王職知之未審故特遣使持
書布告朕志莫自今以往通
問結好以相親睦且聖人言
四海為家不相遠也且聖人言
之理哉至用兵夫孰好
王其圖之不宜
至元三年八月。





九



15







71



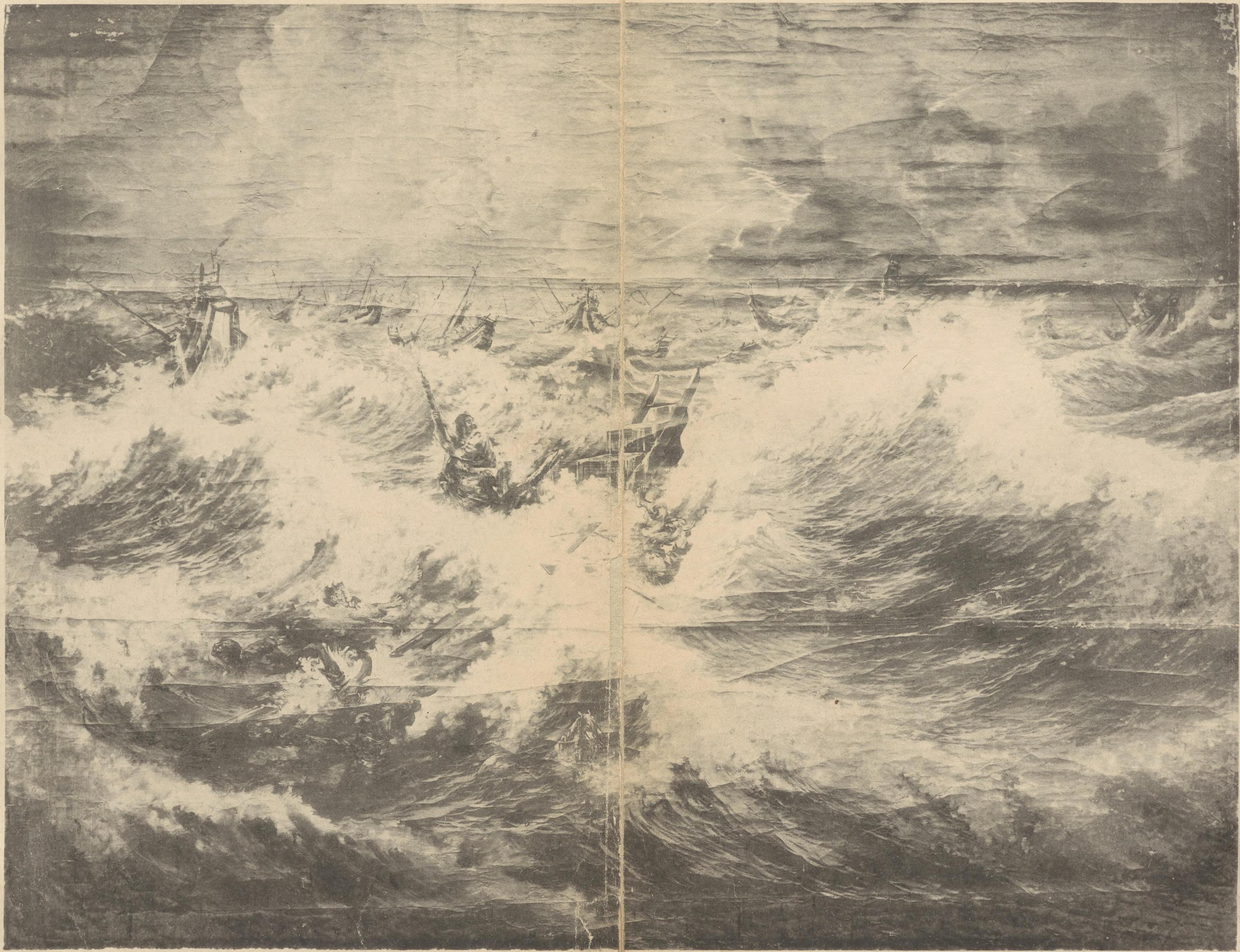
+













明治三十年十月廿六日印刷
明治三十年十月九日發行

東京市神田區小泉町三丁目

重作集
發行所 鎌村讓

東京市神田區通新町三丁目
在陽書文紙店

印刷所 田中市印刷
東京市神田區通新町三丁目
發行所 在陽書文紙店

405
24

